



身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.1.14

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail.co.jp

1～2月の石神井川観察は、1/28(金)、2/10(木)、2/25(金) 9:40JR マンション前
10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもと出発

今年最初の観察・記録活動 1/14 AM9:40 現在 3.1℃

**寒い！ 極寒の中、それでも
植物はたくましく生きている**

前回の観察日は12/24で、その時の地表近くの温度は5.8℃。あの時以来寒い日が続き、今年に入って1/6の降雪もあり日本列島は冷蔵庫状態。1/14は今シーズン最低の3.1℃でした。毎回の温度測定は温度計のセンサーを地表の草の上に置いて測っているのですが、温度計をもう少し長い時間そのままにしていたら測定温度はもっと低くなっていたでしょう。こんな寒い中で、腰をかがめて地面を見つめているわたしたち観察者に道行く人たちは怪訝な顔をして通り過ぎていきました。なにか落とし物を捜しているかと思われているのかも・・・。

日陰と日当たりでは大違い

南側に建つ帝京大学附属病院の陰になっているJR社宅前の歩道ですが、日陰では霜柱がバリバリ(下の左)。でも、太陽が動いて日当たりができるとかなり違うのでしょうか(下の右)。これだけ直射日光が当たると、川沿いの緑道よりも暖かくなります。



前回の観察でも見られましたが、1/6 も下の上段左から**ノゲシ**、**メマツヨイグサ**、**イヌタデ**が咲き続けていました。ノゲシは、ここのところ「一年中開花」する植物の代表種になったと言えます。



加えて、下段左から、**ホトケノザ**は閉鎖花を持ち、**ナガミヒナゲシ**は例年どおり大きなロゼットを広げ、写真では紹介しませんがフラサバソウも蕾らしきものをもっていました。

ちゃんと枯れるのは「新顔の外来種」

すべての植物が春のように生きているわけではありません。「冬らしく」ちゃんと枯れる植物もあります。右上の**ブラジルコミカンソウ**はインド洋諸島が原産で 1992 年に福岡県で発見されたとの説があり、最近やってきた外来種。その下の**アメリカイヌホウズキ**は 1950 年代に日本に渡来ということですから、これも新顔の外来種です。いずれも、日本列島の気候・風土にはまだ順応していないのでしょう。



季節らしい花も紹介しなくちゃ不公平になる

サザンカが最期の彩を見せて青空に映え、**ロウバイ**



が小公園のトイレの近く、誰も気が付かない場所で咲いていました。

